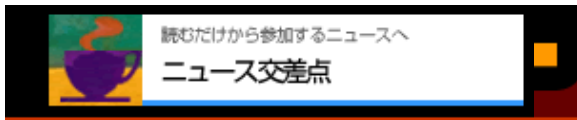


[日経 on the Web](#)[フォーラム](#)[フォーラムトップ](#) > [ニュース交差点](#) > [政治家は素人に頼るな](#) > [パネリスト発言](#)

+ パネリスト発言

Theme

政治家は素人に頼るな

日経新聞(9月24日付)朝刊の「インタビュー領空侵犯」では慶大教授の清家篤さんが、専門家の意見を聞く場である政府の審議会などに素人が目立つと批判。さらに議論を続けます。

[このテーマにコメントする](#) [このテーマのコメントをみる](#)

+ 素人が多いのは官僚の都合

(2007/09/24)

水島朝穂(早大法学部教授)



戦後、審議会は、「行政の民主化」や「官僚制打破」のための助言機関として生まれた。政策立案や法の運用に当たり、国民の意見を、学識経験者が専門的立場から代弁するというのが建前だった。


国会の委員会で大臣は、「審議会でよくご議論いただいておりますので...」と言って、討論の迅速化を求めることがある。これでは、国会審議はますます形式化していく。九大名誉教授の手島孝氏は「審議会は新議会なり」と喝破した。

こうした方向への転機は、中曽根内閣時代に起きたといえるだろう。1983年、国家行政組織法8条が改正され、法律で設置していた審議회를、「法律又は政令」という形で、国会を通さず、政府が必要に応じて自在に設置できるようにした。審議会好きの中曽根康弘首相の下、80年代は200以上の審議会が活動した(85年は法律設置149、政令設置65)。常連の作家や学者、経済人などが出てくる。かけ持ちもいた。



(みずしま・あさほ)53年(昭28年)生まれ。札幌学院大、広島大助教授を経て、96年早大法学部教授。法学博士

さすがに、99年4月に「審議会等の整理合理化」が閣議決定され、審議会の数は減少に転ずる。そのかわり、首相の「私的諮問機関」タイプのものが目立ってくる。名称は様々だが、国家行政組織法ルートのものでは



 パネリスト

 アグネス・チャン
 歌手・エッセイスト

 大宅映子
 評論家

 水島朝穂
 早稲田大学法学部教授

このテーマのパネリスト発言

[専門家だけでは風穴は開かない](#)
[審議会委員の公募制導入を](#)
[素人が多いのは官僚の都合](#)
[>> 第一回から読む](#)

 このテーマの新着会員コメント

[大宅映子さんの意見に同意する。特に審議委員会をはしごして勲章の積...](#)
[これは小泉政権の「遺産継承」の問題ではないか。もともと政府の審議...](#)
[大宅映子氏は「原則論を言えば国会が今の審議会的な機能を担うべきだ...](#)

フォーラム一覧


 プロが読み解く日本経済
 日経エコノミストフォーラム

 読むだけから参加するニュースへ
 ニュース交差点

 変わる「仕事」「働き方」から日本を考える
 いま職場で

ない。教育再生委員会もその一つだ。人選は審議会よりもアバウトで、「お仲間」でまとめることも可能である。

清家教授が適切に指摘されるように、教育再生委員会には、このテーマで最も求められる教育学や教育心理学、教育社会学の専門家がいない。「井戸端会議」的なものに終わってしまう原因の一つがここにもある。

学識経験者といいながら、本当の専門家を入れないのは、実は官僚の側に、専門的意見に対する軽視があるのではないか。あまり本質的な議論をされると、答申に至るまでの時間がかかりすぎる。審議が迅速に進まないというわけだろう。だが、これは本末転倒ではないか。清家教授のいうプロ意識を持った専門家による本質的な批判に、官僚は謙虚に耳を傾けるべきだろう。



[このテーマにコメントする](#)



[このテーマのコメントをみる](#)

[このテーマのトップに戻る](#)

[このページの先頭へ](#)

	IT時代の仕事・会社・ライフスタイルを考える IT社会の歩き方
	科学と社会の接点をさぐる サイエンスぶらざ
	知的好奇心に応える けいざいアカデミー
	朝刊の新連載と読者をつなぐ イエコノミー：ニッポンの家計
	「知」を活かす経営イノベーション 限定 一橋ナレッジフォーラム